



安全で楽しいスキーを伝えたい！

石 狩 鈴 木 伸 一

昨シーズン私は、三度目の挑戦でようやく指導員に合格することができました。

振り返れば、二十代半ばにスキーを始めて以来、はるばる20年以上かかりましたが、今やっとスキーの基礎的なところが理解できたように感じております。

私は三重県の出身ですが、三重にはスキー場が一つしかなく（御在所岳という山の頂上にある）、一般市民にとってスキーは全く馴染みのないスポーツです。それだけに、学生時代に仲間と数度行ったスキーは非常に新鮮で、一つの斜面を降りるのに、数十回も転倒したにもかかわらず（笑）、これは楽しい！と思ったものです。

スキーを始めた当初は自己流でしたので、回数は行きましたが、なかなか上達しませんでした。しかし、三十歳頃にばんけいスキー学校に通い始めてから上達し、2級、1級と取得したものの、その後は子供が小さかったこともあり、10年程半休止状態にありました。

ところが、ばんけいスキー学校でアシスタントをさせて頂くようになってから、スキーを教える楽しさに目覚め、指導者の道を志すようになりました。

それから、さらに10年程が経過しましたが、この間、特に指導員受検のために勉強したこの3年間は、とても中身の濃いものでした。

私はこれまで、あのレルヒ中佐の師匠であるマチアス・ズダスキーが確立し、その後継者たちによって、連綿と受け継がれてきた外脚主体のオーソドックスなスキー技術を、きちんと勉強したことがありませんでした。

このため、当時すでにスキー教師であったにもかかわらず、日々あれこれ悩んでいたことを

思い出します（楽しかった気もします）。

それが昨シーズン、それまでバラバラだったピースが、次々とはまり始めたかのように理解が進み、検定時には各種目のどこがポイントなのか、ほぼ理解できたように感じていました。

この時には、なんと1年前や2年前に先生方に教えて頂いたことが、やっと理解できたという事もありました。

ここに至るまで、なかなか理解の進まない弟子に、気長に何度も教えて頂いた石狩の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

今後は私も、先生方のようにスキーの指導を通して、子供から大人まで幅広く、安全で楽しく、できなかったことができるようになる楽しいスキーを伝えていきたいと思っています。



我が家の子供たちと（ばんけいスキー場にて）

我が家の子供たちは、自宅から30分ほどで行けるばんけいスキー場で育ちました。

幸せ者だと感じて・・・

お伝えしたいことはまだまだありますが、本誌をお読みの諸先輩方、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。